



110ヘクタール。原口良一さんの作業現場の面積だ。

この広大な面積の山を相手に仕事をしている良一さんは林業一家の四代目だ。曾祖父の時代から林業を営む家庭に育った良一さんは、迷わず父の後を継いだ。「小さい頃から山が遊び場で、山の中で育ったようなものだから。」と良一さんは笑う。続けて、「親父が、『一度違う世界を見て来い。』と都会に出したけど全然合わなくて…。自分には山と生きていく方が性に合ってるよ。現場が遠くて山の中で三カ月キャンプを張ったこともあったしね。」と今度は豪快に笑った。正に「山の申し子」と言った感じだ。

林業の専門学校を出てすぐに家業を継いだ良一さんは、4年前に4代目となり昨年、株式会社を立ち上げた。苦労はなかったか訊ねると、「今は林業も高

From young people in the future

錦江に生きる

◎このコーナーでは、町内でこれから根を張っていくと頑張っている若者を中心に紹介していきます。第40回目は、重岳自治会の原口良一さんです。

◎40人目

原口 良一

さん【重岳自治会】



グラップル（通称：はすんたろ）を手足の様に器用に操る良一さん

性能機械化が進み、コストも上がってきている。だから、これからは昔の林業・今の林業の良いところを上手く使いコストを減らしていかなければならない。苦労というよりは、私の手腕にかかる責任は感じている。また、苦労ではないが、自分には9人の従業員とその家族の生活を守る責任がある。だから、もともと頑張らないと！」と自分

に言い聞かせるように話した。これからの目標を訊ねると、「ありがたいことに子どもたちが山を好きで、この仕事を好きで跡を継いでくれると言っている。だから、子どもたちが苦労しないように自分がしっかりと会社を育てていきたい。」と嬉しそうに話した。

良一さんの趣味はスポーツ全般。その中でも特にソフトボールはたくましい肉体から放たれる長打が魅力のホームランキングだ。また、地域活動にも積極的に参加し、PTA会長なども務める良一さんは地域の頼れる兄貴的存在として仕事以外でも忙しい日々を送っている。

最後に一言お願いすると、「家族へ」と前置きしたうえで「忙しさのあまり休みがほとんどなく家族サービスが出来ていない。すごく申し訳なく思っているし心苦しい。でも、何も言わずに仕事も家庭も支えてくれる嫁に大変感謝している。そして、子ども達も『お父さんの仕事』を大好きだと言ってくれることがすごく嬉しく、また大きな励みになっていく。普段はなかなか言えないけどこの場を借りて『ありがとう』を言いたい。」と、家族を想っているのか向かいの山を見つめた。続けて、数年後には弟子入りする長男に「焦らずコツコツと一歩ずつ進めばいい。俺が引退する時に一人前になればいい。頑張れ！」と…。

良一さんは、誰よりも山が似合う、頼れる兄貴だった。

編集後記

●最近は何年になく昼と夜の寒暖の差が激しくなっています。風邪などひきやすくなりますので体調管理には十分気を付けましょう。

●秋。スポーツの秋・読書の秋・食欲の秋。いろいろな秋がありますが皆さんはどのような秋を楽しみますか？欲張りな私は全ての秋を楽しみたいと思っています。

●錦江町のバレー界では有名な友人がアキレス腱断裂の大けがを負いました。心配しつつもけがをした状況（ミニバレー）を考えると周囲は笑い話にしてみました。すると、笑った仲間達が次々と災難に…。韌帯損傷2名・肉離れ1名・ウィルス性の高熱にうなされる者1名・運動会で派手に転倒する者多数。そして私の左大腿部に大きな『ずぐるじん』があ！3回目の肉離れでした…。最近、友人の間では『○○の呪い』と恐れられています。ところで、内出血を『ずぐるじん』と言うのはなぜなんでしょう。ご存知の方、是非ご一報ください。

